



2011～2012 年度
国際ロータリー会長

カルヤン・パネルジー

Weekly Report Niigata



心の中をみつめよう
博愛を広げるために

2011～12 年度 国際ロータリーのテーマ



2011～2012 年度
新潟ロータリー会長

佐藤 紳一

新潟 RC 9 月第3例会 (2011.9.20) No.2913

(1) ロータリーソング「我等の生業」斉唱

(2) 佐藤 紳一会長挨拶

「地区ガバナー」

9月19日は敬老の日です。厚生労働省が公表した2010年の簡易生命表によると、日本人の平均寿命は男性が09年より0.05歳延びて79.64歳、女性は0.05歳縮んで86.39歳であった。男性は5年連続で過去最高を更新し、主な国・地域で4番目の長寿となった。女性は5年ぶりに短くなったものの、26年連続世界一であった。平均寿命はその年に生まれた子どもが何歳まで生きられるか(0歳児の平均余命を示す)男性の平均寿命は06年に79.00歳に到達し4年で8ヶ月近く延びた計算となる。女性は昨年7、8月に熱中症を含む「不慮の事故」による死亡が前年同月比38.8%増となり、記録的な猛暑が平均寿命の短縮につながった可能性がある。国や地域ごとに計算方法や対象期間に違いがあり厳密な比較はできないものの、男性の平均寿命では香港80.00歳、スイス79.8歳、イスラエル79.7歳が日本を上回る。女性は85.9歳の香港が日本に続き、フランス、スペイン、スイス、シンガポール、イタリアが84歳で続く。平均寿命が最も短い南アフリカは男性53.3歳、女性57.2歳。インド、パキスタン、バングラディシュ、男女共に70歳に届いていない。

地区内のクラブ運営は、地区ガバナーの監督下にあります。地区ガバナーは以下を行います。

- ・ クラブがより効果的になるための助言を与え意欲を喚起する。
- ・ クラブとその役員に地区の活動や奉仕の機会について知らせる。

(3) 新会員の紹介

白山パーク法律事務所
弁護士
後藤 直樹
親睦委員

この度、新潟ロータリークラブに入会させていただくことになりました後藤と申します。私は、平成11年4月から平成17年5月までの約6年間、弁護士藤田善六先生の事務所で、いわゆるイソ弁として勤務させていただきました。平成17年5月に、同僚(パートナー)の弁護士とともに白山パーク法律事務所を開設し、現在に至っております。私も含め、弁護士3名、事務員3名の事務所です。弁護士業務としては、個人・法人の倒産関連業務や交通事故関連の業務の取り扱いが比較的多いように思います。これといった趣味はありませんが、休日を子供と過ごすことと、年に何度かの釣りに行くことが息抜きになっています。どうぞ宜しくお願いいたします。

(4) 幹事報告(高橋 秀松幹事)

- ・ 例会後、新会員オリエンテーションを5階「弥彦の間」で開催致します。
- ・ 例会後、指名委員会を12階「佐渡の間」で開催致します。
- ・ 地区の片野広報委員長(新潟西RC)達が作製されたパンフレット「ロータリーライフを楽しみませんか?」をお配り致しましたので、会員増強に是非、お役立て願います。

(5) 会員スピーチ

「最近の医療保障と医療環境について」

明治安田生命新潟支社支社長 松田 昭寿君

9月27日の例会予定

卓話「東日本大震災における

新潟大学DMATの医療支援活動」

新潟大学大学院 医歯学総合研究科

呼吸循環外科講師 高橋 昌

新潟ロータリークラブゴルフ同好会コンペ報告

2011年9月16日(金) 紫雲GC 飯豊コース
競技方法 HDCP 戦 (加賀田 亮一幹事報告)

	競技者名	アウト	イン	グロス	HD	
優勝	柴田 史郎	47	48	95	18	77
準優勝 NP4	武田 博之	46	47	93	13	80
3位	加賀田亮一	54	54	108	26	82
4位 NP17	小林 建	54	57	111	28	83
5位	樋熊 紀雄	54	55	109	25	84

コラム

日本歯科大学名誉教授 下岡正八

“みる”

私は歯科医師ですが、研究テーマの一つにみるということがあります。みるとは、どこからどこをという2点が存在します。しかし一般には、どこからは暗黙知となりどこをのみが日常では問題になります。

女子のワールドカップサッカーをみたという場合、ドイツに行ってみた、夜中起きて実況のTVをみた、新聞や号外で写真をみた、極端な場合、人から聴いただけなのにこれらもみたことにしてしまいます。そのプロセスはあまり問題にしません。女子がワールドカップサッカーで優勝したこと以外は、全て一般の人にはどうでもよいことだからです。

その他、みるといった場合少し専門的になりますが、自由な身体の動きなしに成立しません。そして気付きが常に含まれます。また、眼球は自らをみることができないので、自己観察には限界があります。つまり、目の中に光が入り網膜に光の像を結ぶといったことが述べられていますが、例えばリンゴをみても、それが何であるかは人間が生後にリンゴというものを学習していなければ、網膜に写ったリンゴが何であるのか解からないのです。一般には、解かると思っています。このように現代の大人達は、自分がみるように子ども達もみているを前提にした考え方をします。

以下に同じような間違いを列挙しましたので参考にして下さい。

- 人は、部分をみることに優れ全体をみることは軽んじられます
- 人は眺めはしても注視はできません
- 人は、紙を筒状にしてものをみているわけではありません
- 人は、客観的にものをみていません
- 直感は、本来みることであったのです
- 多くの場合、視覚から抽出される特徴は我々がみるものの決定因ではなく、みるものに対する制約としてしか働きません
- 視覚的なものを言語化するのは、味覚的なものを言語化するのと同様困難なことであります
- 科学的理論構成できれば、みえないものをみえると思います
- 人は、9割が外観で判断しますが、外観をみて全てを語れるわけではありません

何故みるという研究をしたのかということ、人間は対象となるものを、どのように正しく見極めているのかということを知りたかったのです。実は、人の観察時の眼球運動を追跡(ビジョンアイカメラにより)することにより人間の情報の取り込み方の特色を吟味することができるといわれています。これは脳の働きです。認識、運動制御、意識、情動、学習、記憶といったことは脳が行っているのです。しかし、脳の研究ははじまったばかりです。いまだにこの問いに正しく答えられる人はいません。